

- ・本日は健康作り推進員の学習会ということで出席しましたが、先生の講演と思いながら来ましたところ違う事でしたので疲れました。これから推進員として活動が出来るかどうか不安です。
- ・今日の研修会は内容がよく理解できなかつたです。
- ・健康とはなにか、幸せに生きるためには？ 日常の生活になにを考え、何を行ってゆくのか、それは一日の積み重ねが大切であると思います。そして、自分を大切に。
- ・皆さん健康に対して気を付けている事が分かりました。趣味が多い事も大切と思いました。
- ・健康である事がどんなにすばらしい事であるか、自分も気を付けて行きたいと思います。
- ・今までこのような取り組みの勉強会というか、学習会というかやっていなかったのですが、今日は大学の皆様方と、足立区にとって大切な学習会ができてよかったです。
- ・自分たちの進めているテーマに近い内容でしたが、いろいろな進め方があるのですね。参加してよかったです。
- ・学生さんと一緒に勉強ができ、新鮮さも加わり、分かりやすくよかったです。いろいろなご意見もうかがえ、楽しく、時間の経つのも忘れてしまいました。
- ・いったい何が始まるのかと思っていたが、徐々に分かってきました。推進員としてこれから活動していくときに区民がどういう事を望んでいるのか、その手段（手がかり）が分った。地域性もあるし、時期的な事もあるが、推進員としてやりたいことと地域の人の望んでいる事が一致するとうまくやって行けると思います。
- ・アンケートの内容が高齢者の方々を対象にしている、私たち住区センターにおいても共通する事があります。一つ一つ意見を聞きながら実践していく事が大切だと分かりました。
- ・本日は講演と思い参加したが、生き生きと生きる事についての勉強会をやり、分かったような、分からなかったような気がしました。
- ・高齢社会を迎え、お年寄りがいつまでも幸せで健康に過ごすには、我々としてどのような方法を考えればよいか、なかなか解答がでない。住民からアンケートを集めてより良い方法をつかみたいと思います。
- ・膨大なカードをまとめていくうちに、何となく健康とはどういう事かと分かってきたような気がします。これからまた大変だな、と思いました。
- ・今日の流れなどの話しのときは何をどうするのか分からなかったが、だんだん理解できた。しかし前のときよりも進んでいないように思いました。

ワークショップ終了後の保健婦さんとの話し合い

* 母親ウォンツグループの感想

筑波大学側

- ・全体の分類をまとめた後に再カテゴリー化を行ったが、不十分だった。
- ・議論がもっと深く行われるべきだった。読み取りが不十分だった。
- ・さらに深く読みこまないとエイブルが出てこないのではないかな？
- ・エイブルデータはみなが実現可能なこととして、みんなで考えてもらった。
- ・赤字で書かれたデータ（当日データ）と合わせれば、うまく行くのではないかな？
- ・ウォンツの意味を理解してもらおうのが、大変だった。
- ・ウォンツの言葉になじんでいない、英語だと言うだけで拒否反応があり理解が出来ていなかった。
- ・字が小さいと見えにくい。
- ・ウォンツやエイブルという言葉を使わない方がいい。

保健婦さん感想

- ・初めての方の目線での説明が無いと困る。
- ・今日の目的が見えていなかった。
- ・何の役に立つのか？をもっとPRして欲しかった。
- ・・・・声を聞き取る方法として非常に効果があるんだ！と言う事をPR。
- ・尻切れトンボで終わった。まだ続きがあるのか？と思った人がいた。
- ・ウォンツには素直に入っていたが、これからは不安。

* 高齢者ウォンツグループ

筑波大学側感想

- ・3時間でウォンツの読み取りまでするのは大変ではないかな？
- ・英語を使う（ウォンツ・エイブル）と、理解が不十分になる。
- ・保健婦の方と推進員の方でやる気や目的意識の差がある。
- ・初めての人に対して全てを説明するのは時間的に難しい。
- ・みんなの声を十分に集める事、発言してもらおう空気が出来ていなかった。
- ・「何を目的に行うか」は言ったつもりだったが、不十分だった。
- ・何が足りなかったのか？を読み取る時に、その言葉の背後に含まれる。
- ・意味を共有する場があったほうがいいと思う。
- ・推進員の方の今後の参加についてはどうなっているのかな？

保健婦さん感想

- ・推進員との仕事の共同は難しいと思う。
- ・住民（推進員）の参加のメリットがあれば、もっとアピール出来るが、自分でも、まだ理解が不十分なので、分からない。

- ・どこまで負担を掛けて推進員の参加を促すかが問題である。
- ・行政ではない自分の出来る事が何か？が理解できたのではないかな？
- ・今後ウォンツで学んだ事が活用していけるのではないかな？
- ・体験を続ける事で積み重ねる事は意味があるし、重要である。

6月13日ワークショップ総括

あらかじめ保健婦さんにとってもらっておいた、高齢者と子どもを抱えた母親からの「私が心も体もいきいきと生活している状態とは？」というウォンツを分類、読み込む作業を行った。その結果、ウォンツがうまく取れていないという声が多く上がった。この「私が心も体も生き生きと生活している状態とは？」という題でウォンツを書いてもらうと、何をしている時が楽しいか、という問いかけになってしまったようで「寝ているとき」や「食事をしている時」のような答えが多く出、それらは目的系図につなげにくい形だった。ウォンツ本来の意味である「望ましい状態」を書いてくれた人は少なかった。ウォンツの題の文章が反省材料といえるだろう。

また他の反省として、筑波大学側の責任者がはっきりしなかった。途中でワークショップ進行の方針を変えた時に、全員に意図が伝わらなかった事などが挙げられた。

6月13日 帰りの電車の中でのミーティング（筑波大学）

内容

- ・前回は大量のプリントを配って文句を言われた。
今回は先のことを言わずに文句を言われた。
- ・ウォンツと言う英語が参加者になじみにくいという欠点がある。
- ・参加者の声・意見を全部汲み取れなかった。
参加者数とモデレーターとの人数比に問題がある。
5人ぐらいがいいのではないだろうか？
他人の意見を聞き議論を深める点においては大人数のメリットもある。
「全体一細かくー全体一細かく」だと、参加者があいまいになっていく。
- ・全体的に時間が短く、配分設定が不十分であった。
- ・筑波大学側に共通理解がなかった。
学生内に経験に差があるため、意思疎通が難しい点がある。
足立区側と筑波大学側に意見の差もみられ、十分な議論が行われていない。
- ・推進員が非常に元気があったが、他の参加者との交流が少なかった。
- ・ワークショップ終了後の足立区と筑波大学とのミーティングが長かった。
ミーティング内容についてもあらかじめ担当を決め、事前に準備する必要がある。
- ・タイムスケジュールの掲示が必要である。
- ・ウォンツ・エイブル説明が難しい。

説明方法を統一することも考えられるが、説明する内容が統一されていれば説明方法には多様性があることは明らかである。

- ・参加者である推進員の人にも参加型手法の理解度に差があり、初回参加者には理解が困難であった。

- ・細かい意見が出てても要約する意見によって排除されてしまうことがある。

- ・講演会だと思っていた人がいるなど、参加者の意識に差があった。。

公示されたプログラム上の記載に誤りがあった。

参加者の中には予想外の3時間にもわたる参加型の議論に疲れたと言う人もいた。

- ・タイムキーパー担当の学生が議論に参加させたため、進行およびその伝達に支障がでた。

- ・筑波大学側に準備不足がめだった。

- ・推進員の感想に「皆、こんなことを思っているんだー。新聞のアンケートと同じだ」というものがった

- ・保健婦、佐々木係長、筑波大学との間に対象地区の考えに違いがあると思われた。

6月19日(火) 筑波大学ミーティング

☆計画の変更

これまでは筑波大学がワークショップを進行しモデレーターを勤めてきた。そのため、足立区(保健婦)の参加型手法、特にモデレーターとしての経験が不十分である。将来的には足立区が筑波大学とは独立して参加型計画立案を進めるべきであることから、保健婦がモデレーターを勤める機会を作るべきである。また、これまでは住民が作成したPDMがなく、住民参加の達成度は低いことが懸念される。

→7月6日の目的系図、簡易PDM作成には住民が参加することにする。

*トレーニングの意味も込めて保健婦の方達に6月21日に目的系図、簡易PDM作成をしてもらう。(保健婦が作成した目的系図は7月6日に住民が簡易PDM作成をする際の原案とする)

*7月6日の目的系図、簡易PDM作成の際には、区内を保健所によって6つにわけ、各小区から5から8人参加してもらう。地区ごとの6つのPDMを作成する。(未定)

☆変更の問題

- ・参加者の募集方法などをどうするか?
- ・いままで母親、老人には触れてきたが、労働者(具体的には国保加入者で検診未受信者)はまったく触れられていない。
←現段階では保健婦のモデレーター・トレーニングが主な目的なので、次回のワークショップの対象は、午前中に時間が比較的取りやすい老人層に絞って実行する。

☆変更後の流れ

足立保健所職員のトレーニング

↓

住民参加(高齢者及び関連団体)と衆目評価

*ポイント

足立区関係者が自力で10カ年計画を作成する。

この為には保健婦の参加型達成感が必要。

☆今後の予定

6月21日

保健婦さん達による目的系図および簡易PDMの作成を行う。

7月6日

高齢者グループと(モデレーターは保健婦)による目的系図の衆目評価的改訂を行う。

7月8日

作成した目的系図を持参して実際に訪問し、衆目評価を実施する。持参する目的系図は7月6日に作成した地区別目的系図である。各地区における訪問地は行事や状況を理解している角逐の保健婦さんに委任する。午後は反省会および全体の総括を行う。

6月20日（水）筑波大学ミーティング

7月6日・8日に関する最終ミーティング

決定事項

☆7月6日午前中

*目的系図 PDMづくりの役割分担

・サポート

書き取り隊

江崎・渡辺・西島・稲葉・由芽・平松…モデレーションの評価を午後にそなえる。

川島・坂下・平木・小林・堤・浅井…高齢者の言ったことを書き取る。

・ビデオ 小川先生

・全体観察 石田先生、平山先生

・タイムキーパー・全体進行 豊川

・連絡係り 豊田

6月21日(木) 保健婦による目的系図づくり

- 目的：①高齢者のウォンツ・エイブルカードから目的系図を作り、7月6日のワークショップのたたき台を作る。
- ②同時に7月のワークショップでモデレーターを勤める保健婦の方にその方法、進め方について理解をしてもらい、身に付けてもらう。
- ③目的系図や簡易PDMを作る中で、高齢者のウォンツをより深く読み取り、理解する事で、当事者の想いを行政が知る事が出来る。

当日の流れ

*前回までのワークショップ、計画の流れの説明と今日の目標の説明

- ・13日のワークショップでは高齢者の方に参加してもらい、ウォンツに書かれているカードの真意を読み取る事を目的としながら、棒グラフを作成し大きな分類を行った。
- ・今日は今後のワークショップにつなげるための目的系図作りと、次回モデレーターとして活躍する保健婦の方にその意味を理解してもらう事が目的。

①目的系図の作成(9:40~)

最初に全体で「家族」の項目の系図を作り、その後大きく2つのグループに分かれて、「健康」「趣味」についての目的系図を作成してもらう。

完成した後で、系図の結果を発表、質疑応答の中で、目的系図の理解を共有化する。

②高齢者エイブルの分類/行政エイブルの作成(13:15~)

午前に完成した目的系図に従って、高齢者自身が書いたエイブルカード「私は～が出来る」を分類してもらう。

その後、行政が出来る事(行政エイブル)を2つのグループごとで作成してもらい、発表を通じて共有化を行う。

エイブルカードは住民が「出来る」と考えたものだとして、区として行政として出来ることはなんですか?をかき出してもらった。

*次回ワークショップに対する質疑応答、連絡事項の伝達

- ・7月6日は高齢者の参加によるワークショップを行うために、その準備が必要
- ・保健婦は21日に完成した目的系図を6日のワークショップのために複製する
- ・モデレーターは保健婦が実施
- ・筑波大学側は6日は高齢者の書き取り隊として参加。

6月21日 PDM作成後の保健婦による気づきカードの内容

①午前・目的系図を作成して…

- ・作業は大変だが、整理されると案外すっきりするものだった。
- ・お金関係が思ったより出ていない事が意外だった。
- ・住民がどんな思い出カードを書いたのか？6日が楽しみ。
- ・整理されると「そうか！」という感動を覚える。
- ・足立らしさをもっとあると面白いと思う。
- ・言葉を選ぶのに精一杯。全体を見る事が難しい。
- ・いきづまったとき、どうしたらいいのか？
- ・住民を交えての作業は難しい。この位の少人数でした方がいい。
- ・すっきりした部分と、しない部分が混在している。

②午後・個人エイブルカードの分類／行政エイブルを作成して…

- ・区民の要望を集約する手法としてとてもよい方法だと思う。
- ・素早く整理が出来た。行政のできる事は既にやっているんだなあ実感した。
- ・4月の研修のときより、ずっと楽に感じた。
- ・色んな角度から素朴な思いが書かれていると思った。
- ・今すでにあることが意外に多かった。こんな意味もあるんだと改めて感じた。
- ・高齢者が自尊心を失うことなく、自立して生活できる条件作りをもっと考えなければならぬと感じた。
- ・作業は分かったが、これをどう政策にしていくのかがまだ見えないので不安。
- ・行政がやるべきことを考える上で、もう一度区民と一緒に考える点が良い。
- ・「行政がやれること」がたくさんあったが、どれからやっていけばいいのか？
- ・行政のカードは区民の要望を汲み取るのか？区ができる事なのか？して欲しい事なのか？
- ・一つの言葉から様々な思いが読み取れるので分類が難しい。
- ・実際の高齢者の方の意見と一致しているのかが心配。
- ・色々な意見が出たときにどうまとめればいいのか？
- ・何が正しいのかが時々わからなくなる。
- ・上下関係を見定めるのに時間が掛かる。
- ・言葉の裏を考えて、何を言わんとしているのかを読み取るのが難しい。

6月21日 PDM作成後の保健婦の感想（一日を終了して）

- *自分にできること(エイブル)を積極的に出してもらうための言葉がけはどうしたらよいか。
- *行政にしてほしいことがまだまだたくさんある中で、あなた(私)自身が主体的にやってみようと思える、思わせるのがこの手法の根本だと思う。
- *わくわくしてくるような気にさせる、進行役としての役割は大きい。

- *午前中が大変だったと思う。(欠席したので推測だが)
- *具体的な事柄から抽象的な事柄へ言葉で表現することが、慣れていないと大変かもしれない
- *反対の方向は結構住民の方もできると思う。

- *本日目的系図作りを実際にして、これまでよりだいぶ理解が深まって事柄が理解された。しかし、今回指導して下さる方がいたから分類もできたが、一人でやるとなったら不安が大きい。何回も体験することによりコツを覚えていくのかなと考える。
- *住民と最初から一緒にやるのが意味あることと思うが、まとめるのはかなり大変と思われる。

- *今日は思っていたより楽しくできた。午前中のウォンツをまとめる作業が自分一人で進行できるかちょっと不安。いろいろな意見を持った方が多いのでまとめていくのも大変かなと思う。

- *手法は、実際にやってみることで理解が出来た。
- *今後のイメージがまだ見えていない。きょう、PDMを作成したが、7月6日に5地区に分かれてPDMを作るということは、今後の作業、政策への反映も5地区に分かれて取り組むことになるのだろうか？ それとも今回は、「手法を学ぶこと」が目的で良いのかが分からない。
- *足立区のワーキンググループとして、一つしっかりまとまったものができて、何か一つでも政策に反映できればいいと思うのだけど…。

- *6日の高齢者の人選が一番難しいが、どうしたらよいか？
- *「おもしろかった」、「よかった」という会にしたい。地区特性まで出したいが、本当にそうできるか心配。何とかかなりそうな気もする。
- *9:30スタートで、休憩も取れるようにしたい。人出も必要。お茶が缶であるといい。

- *7月6日の目的系図の作り替えにあたり、今日の午前中参加していなかったため、当日に分かりやすい説明ができるか少し不安。

* 7月6日、いよいよ区民の方と一緒にまとめあげることの期待と、上手く行くかどうかの不安が半々の状態。区民の方の行政への要望をどれだけスマートに集約できるのか。

* 当日、学生の方も記録係として参加して頂けるとのこと、助かります。

* 4月のときより呑み込みが速くなったが、住民を相手に説明するには不安がある。4月に2回と6月に2回の計4回で覚える時間が無さすぎると思う。やるからには、しっかりやりたい。

* まだ結論は出ていませんが、やはり6日のワークショップでは‘できることのみ’でいいのではないかと10:00~12:00くらいが負担なくて健康的だと思う。

* 今日は、ようやく先が見えた気がした。ここまでのプロセス、区民にとっても、参加のプロセスが今後に多いに役立つことと思う。説明をすることは大変なことと思うが、推進員の方は、自分のしてきたことの理解が深まると思う。何回かに分けて実践できるともっと良いと思う。

* 今日は、とてもスムーズにできた。7月6日、私達の発想と違う、私達が思いもよらない発想が出ると良いなあと思う。

* 目的系図は上下関係がまだ理解不足で、考えていると頭が痛い。

* 高齢者の健康を守り、向上させるという視点がまだまだ若い保健婦に弱いと感じた。住民の中に入ってもっと声を聞く作業が必要。

* 今日の演習を通して、今後の地域活動が転換することを期待したいと思う。来年以降が楽しみ。

7月4日(水) 筑波大学 ミーティング

7月6日に行われる、足立区在住の高齢者を参加者とするワークショップに関するミーティング。特にウォンツ・エイブルの完全版(足立区ではウォンツとえいぶるのみを記述する簡略版)であるウォンツ・エイブルの5段階分析を行う。これは学生側が今後のPCM手法の活用の際に、ウォンツについての認識をさらに深める必要があると認識したためである。

☆学生が自分達のウォンツ・エイブルを持ちより、5段階立案法による分析を行う。

*目的:ウォンツ・エイブルに対する理解を広げる。

*題:「大学がもっと楽しくなるには」

*5段階立案法の流れ

- 1.理念設定(ウォンツを探る)
- 2.現状把握(1のウォンツそれぞれに対する現状を表記する)
- 3.未来予測(1のウォンツと2の現状のギャップにより、現実になくなった場合:プラスと悪くなった場合:マイナスを予測)
- 4.方策立案(3で分析した未来予測のプラスを達成し、マイナスを回避する方法を検討する)
- 5.実行計画(時間軸で実行計画を設定:~までに〇〇する)

→ウォンツ・エイブル分析は以上の1と4を用いた、より実践的な手法である。

3:30~4:30まで(およそ)

ウォンツ5段階分析を行う。豊川さんが全体の司会をしながら各個人がどんどんウォンツを書いていく(一人15個)。特にみんなの疑問が出たのが「未来予測」の項目。

プラスとマイナスとの未来を予測するということだが、どこまで予測をするのか?マイナスとは変わらない状況なのか?それとも悪化する状況なのか?プラスとは実現された状況の事なのか?が十分に理解されていなかった。未来予測をする意味はなんだろうか?という意見が出されていた。

後は、実行計画の段階では、個人が「自分ができる事がない時」はどうしようか?「学校に提案する」とか言うエイブルには期間とかどうするのか?とか言う意見が出されていた。

4:30~5:15

やってみての感想および議論:PCM手法とウォンツ分析とのつながり、連携についての議論を行った。特に先程の未来予測や現状把握がPCM手法にどう意味があるのか?認知心理学などで、これを行ったほうがPCM手法にスムーズに入れるし、個人の現状とかがクリアに見えるから意味があるのでは?という意見が出されていた。PDM作成時に外部条件などとして、ここで出てきた項目が行かされるのではないかと(豊川さん)という意見が出された。とにかくみんな、未来予測が難しかったと言うのが感想。

ウォンツの理念設定時の順位とエイブルの順位との違いをどう捉えるか？ウォンツに対して、現実性を加味するとエイブル順位と違って来るし、より具体的なものが見えてくるのかな？という説明で理解をした。

ウォンツデータ（理念設定）を目的系図のデータとする（問題系図は問題を新たに生み出すから、あまりしないほうがいい）時に、上手く流れるようにするにはどうすればいいか？が話し合われた。ウォンツデータが抽象的なために、目的系図にそのまま利用するのがいいのか？もしくは何か別の方法があるのか？などが議論の焦点となった。ウォンツデータ（I：私の考え）から目的系図（we：私達のもの）への転換を行う上での注意点、活用の際にどうするか？などなど・・・

構造化する（目的系図からPDMへ）中で、全体のコンセンサスを得るときにウォンツデータやエイブルをどう用いるのか？その意味は？などが問題として出されていた。

答えとして出てきたのは、理念設定時のウォンツデータを使うのではなく、実行計画、方策立案時に、私の出来る事：エイブルが書けなかったものを目的系図で持ちよる事が必要では？と言う事になった。個人でエイブルが書けなかったものは、私達（集団もしくは行政）で対応できることではないか？それを目的系図として参加型で話し合う方がいいのでは？と言う事で一致しました。

あと、坂下からの疑問としてあったのが、漠然としたウォンツを出すと、その後の未来予測などが難しいけど、これはどうするのか？というもの。具体的には「おいしい昼ご飯を食べたい」と言うウォンツに対しては

1. 学食をおいしくする
2. 自分でおいしい弁当を作る

と言う2つのウォンツ（エイブル）がでてくるが、1つのウォンツに対して1つの現状分析や未来予測をすると考えるのであれば、この2つをどう扱うのか？

みんなの議論の結果としては1つのエイブルにこだわらず、いくつも出てくるのであれば、いくつも書き出したらいいいのでは？と言う解答になった。

またウォンツの質問の取り方の重要性も認識した。

7月5日（木）筑波大学内 ミーティング

☆7月6日・8日の計画の仕上げ

6月20日に行った役割分担にしたがってそれぞれの担当が考えてきた計画を発表し、全体で最終的な検討を行う。

7月6日、8日の全体の流れを把握し、当日の役割分担（書記・タイムキーパーなど）も決定

7月6日（午前） 高齢者参加によるワークショップの計画

1. 目的

- ・保健婦さんにモデレーターを体験してもらう。
- ・「生の声」による作成した PDM の加筆・修正を行う。

2. 当日の流れ

- 9:00 保健婦との打ち合わせ…担当；豊田
筑波大学側：会場準備（目的系図の張り出し、ポストイット・ペンの準備）
- 9:30 高齢者とのワークショップ
- | | モデレーター（保健婦） | 書き取り隊（筑波大学側） | |
|---|-------------|--------------|-------|
| } | ・江北 | 江田、福居、中村 | 稲葉、平木 |
| | ・竹ノ塚 | 渡辺、中村 | 江崎、坂下 |
| | ・中央本町 | 木村、平沢 | 西島、浅井 |
| | ・東和 | 音喜多、熊谷 | 由茅、川島 |
| | ・千住 | 斎藤、松尾 | 渡辺、堤 |
- ※書き取り隊は高齢者のつぶやきをカードに記入する仕事を行う。
- ①佐々木峯子保健婦（健康推進担当係長）による挨拶。
- ②モデレーターによる目的系図の説明（50分）
- ・アイスブレイキング
 - ・高齢者に目的系図を理解してもらう。
 - ・ウォンツカードに対して投票（1人5票）⇒その後、話し合い。
- ③高齢者エイブルの説明&加筆修正（25分）
- ・高齢者にとって自分ができるエイブルをだしてもらう。
 - ・『自分が』できることに対して投票（1人5票）⇒その後、話し合い。
- ④休憩（10分）…各班ごとに休憩
- ⑤行政エイブルの説明&加筆修正（25分）
- ・行政への要望、または行政のアイデアである行政エイブル（既出のカード）へのコメントをとる。
 - ・『行政が』できることに対して投票（1人5票）⇒その後、話し合い
- ⑥まとめ（25分）
- ・高齢者から感想を聞き、最後に『気づき』を書いてもらう。
- ⑦（班ごとに）佐々木保健婦による挨拶 ⇒ワークショップ終了
- 11:45 保健婦・筑波大学側による話し合い（60分）；
- ・気づきをカードに書いてもらう。
 - ・今回の参加者のこれからの「参加」の持続の可能性を探る。
- 12:45 終了

< 7月6日 午前の記録 >

- ・ 机のセッティング；広すぎるかもしれない。（竹ノ塚）
- ・ 机の位置に縛られず、椅子だけをもってボードに近づくのも良いのでは？
- ・ 保健婦さんが話し方・説明の仕方が、学生よりも高齢者のペースにあわせることができている。
- ・ ひとつの部屋を共有する場合のついでが必要ではないだろうか？
- ・ 休憩はいつせいにとったほうがいいのか；それともディスカッションの流れから各グループでとったほうがいいのか。

- ・ 新しい、具体的なカードがでてこない。
- ・ 書き取り隊にすることで、カードでは出ないような声が拾えている。
- ・ テーマに対して「家族」のカードが入ることに対して、昔はなかったという意見が出る。
- ・ そのカードは大切なのか？あなたはそういった疑問を経験しているのかどうか個人的に知りたい。カードに対する意見であって新しいカードが出てこない。自分は…というカードや意見がほしい。
- ・ 「付け加えてほしい」というモデレーターの声があった。
- ・ 盆踊り参加シート；生活のゆとりといったように大きくしない；祭りの質がかわった。
- ・ 高齢者と幼稚園の問題。お茶のみ話からきく。この場にきてほしい。

- ・ 参加者に偏りがあるので、「社会の中で役割があるカード」が高齢者なのに投票されていないところがある。

- ・ 高齢者としてくられてしまうことが不満と思う高齢者もいる。
- ・ ボランティアもあればいい；車椅子を押す；60才のあらたな役割を創出してほしい。
- ・ ネットを見ることができるようになりたい。ボランティア情報がながれてこない。
- ・ 私、年よりだからという言い訳から何もしない人もいるようだ。
- ・ 自分からできることを、なぜ今やらないのか？
- ・ 自分は受けることばかりを考えている。与えることを考えるべき。どういったことができるのか例をあげてくれ。げんきなうちにいろいろやってほしい。カラオケならいく。

- ・ どこかにカードではいけないだろうか？モデレーターさんの系図に反映させようとする努力がわかる。実際にどんなことがあるのか、というカードがほしい。

- ・ 参加者の声；年代や話題が違う。

- ・ 安心ネット；意識しないボランティア；ボランティアネタの募集が必要。
- ・ （電話相談室）行政さんがやると重々しくなる。電話しづらい。悩みを聞くだけで十分であ

る。

- ・ワークショップにおいて意見を出していない参加者への配慮も必要かと思いました。
- ・老人クラブなど「団体」の意見を聞くことが大事。
- ・スロープ作成などのバリアフリーにおいても、行政の設計の段階では机上だけの計画による
であり、現場を見ない計画であるという避難。

足立区 W.S. 7月6日 午後の部のミーティングの計画

- 14:00 昼食を終えて、集合 …気づきカードを整理する。質問カードに逐一書く！
地区毎に集まってもらって、午前のシェアリングを行う。
保健婦の方の疑問、感想を聞き、学生のコメントを返す。
続く全体ミーティングで話す内容をまとめる。
(疑問に着いてみんなに聞きたい事は何か?)
- 14:25 全体のミーティング …カードを読む。
保健婦の方の感想、質問に答える。
みんなの意見や考えを聞いてシェアリングを行う。
- 14:55 PDM の読み取り作業を行う。
他のグループとのシェアリング (各班5分)
- 15:15 休憩
- 15:20 8日の流れの説明
午前中に衆目評価を行い、午後から最後のミーティングを行う。
衆目評価の説明
- 15:45 各グループ毎に別れて、8日の集合場所、目的地を話し合う。
- 16:00 各班終了した時点で後片付け、解散。

<7月6日 午後の記録>

*それぞれの班での疑問点を挙げてもらう。

<保健婦さんの疑問>

- ・私のモデレーションはこうでしたがほかの地区ではどうでしょうか？

ピンクのカードが思いのほかたくさん出た。声になっていない声を学生が手際良く書いていた。ただ、私たちの実践で私たちがすらすらできるか不安。

- ・平山先生の地域特性のカードを出せという紙切れでのアドバイスが良かった。
- ・投票後の話し合いで、投票が多いところに集中して話すべきか、どういう方向で話すかが難しかった。

- ・場所設定の問題、小さい目的系図があれば良かった。
- ・問題系図の左側から話し合ってきたが、右側からでも良かったのだろうか？
- ・ウォンツの追加が少なかった。いらないうってはがしても良い桜のカードがあっても良かったのでは？地域の特性で盛り上がっているところは、時間として長くかかってしまった。
- ・ウォンツで投票が多かったカードのエイブルカードがなかった列は話題を振るべきだった。
- ・投票用紙（テン・シーズ）5枚では不足。高齢者の意見が聞き取りにくかった。

<学生の答え>

- ・どうやって声に出てない声を書くのか？
考えずになんでも書く。
休憩時間、集団で集まって投票するときに声が出る。
- ・高齢者の雑談は書き取れなかった。
- ・否定するような、これはいらんんじゃないのというカードも書いた。
- ・どこに焦点を当てるか、進行の難しさがあった。
- ・せっかく同質のメンバーが集まったのだから狭く深く掘り下げるべきだった。
- ・テーマを共通に設ければ比較できたのではないか？

*人数について

- 5人から15人まで多様な意見が上がった。
- 5人程度が発言しやすく、参加者によるぼそぼそ話も正規の意見になる。
- 7人程度がちょうどいい
- 15人以上では多くの人の意見を拾うことができる。

*各班の発表

江北地区

- ・「一人でも幸せである」というカードが新たに加えられた。
- ・心が健康である→心の110番 に対する要望が多かった。
- ・住区センターでいじめがある。ボスが必ずいる→活用してはどうだろうか？
- ・なぜ江北地区には小さな路線バスがないのか。→拡張して欲しいというウォンツが出た。

竹ノ塚地区

- ・75才でも若いんだ、高齢者はおかしいだろう、という意見があった。
- ・少しでも役たつことがあればする（こもり、車椅子）という声が聞けた。
- ・世代交流の場を作ると盛り上がった高校生のパラパラを教えてほしい、との事。
- ・家族関係のことはあたりまえで、昔は自分たちはできていた、環境の変化がある。
- ・活動している人だったので私たちはできている、という意見が多かった。

中央本町地区

- ・自分のみに関係ないところ（主人が元気な人は主人の介護を見ない）
→私たちが私か？
- ・「私が」と設定したことで地域性が出てこなかったのではないだろうか？
- ・高齢者110番 は好評だった。
- ・「バス路線があると歩かなくなる」という意見が聞けた。

東和地区

- ・綾瀬先からバスが不便→「はるかぜ」の路線を広げてほしい。
- ・家族で子育てを話し合えれば良い。子育て支援に表が集まって保健婦はうれしい。
- ・エルソフィアは予約制なので、すぐ相談できる電話相談がほしい。

千住地区

- ・趣味があるというところに表が集まった
→千住は家族環境が良いので家族カードは少ないのだろうか？
- ・行政に望むことがあまり出てこなかった。
- ・少しでも役たつことがあればするというのは、高齢者なので自分をまずしっかりしてる。
- ・千住の河川敷の草刈をして散歩を充実させたい。

その地区の特色が明らかとなり目指すところが違うというのが面白い。

メンバーの性別、役職、年齢の違いも大きい。(参加者の背景に強く影響を受けている)

*衆目評価について事前連絡

実行方法

- 1) 挨拶
- 2) 目的系図の説明
 - ・メンバー：でてきた意見を書き取る。
 - ・英語厳禁（ウォンツやエイブルは使わない）
- 3) 投票
 - ・貼るときは相談しないようにする。
 - ・ポストイットはそのつどはずす。
(他の意見に左右されないように)
- 4) Xカード
 - ・よくない考えがあれば貼ってもらう。
 - ・複数ある場合は一つだけに絞ってもらう
- 5) 質問
- 6) 貼ってもらったポストイットを集計する。
ポストイットにはあらかじめ番号をふっておく（筑波大学担当）

*衆目評価に関する質問

- ・職業を聞くのはどうか？
→「もし差し支えなければ、、、」と加える。
- ・高齢者の隣の若い人がいる場合はその人にも聞くのか？
→はい
- ・目的系図の説明は？ →保健婦さんが中心となって行った方が良い。
- ・違うカテゴリーを持つ集団は？
→ 一人一人衆目評価をする
- ・集団でも個人できけるときは一人一人衆目評価をする方がいいだろう。
- ・ノルマは？ →なし

*衆目評価、当日（7月8日）の分担；各地区2グループ形成

江北	：江田、(稲葉)(平木)	福井、(島津)(野田)
竹ノ塚	：渡辺、(江崎)(豊田)	中村、(小川)(坂下)
中央本町	：木村、(西島)(浅井)	佐々木、関口(平山)
東和	：熊谷、(由茅)(豊川)	音北、(平松)(川島)
千住	：松尾、斎藤、(堤)(渡辺)	

7月6日 足立区とのミーティング直後の話し合い

直後の反省と8日に向けての話し合いを行った。(筑波大学関係者のみ)

直後の反省

- モデレーターの保健婦さんたちの話のうまさにみな感動した。
- 目的系図が本当に変わったかどうか疑問。多少付け加わったところはあるが根幹は変わっていなかったと思う。
- 目的系図を変える場がなかった。
- ガムテープで引いてあって変えにくい。
- 決定的な気がする。
- 変えるという雰囲気ではなかった。

足立区ワークショップ（7月8日・午後）

衆目評価の結果および概要

I 衆目評価のシェアリング（13:30～14:30）

各地区ごとにまとめの発表と感想を述べてもらう。

＜東和＞12人にインタビューできた。

- ・意見の多かったエイブルは、「きれいなトイレ（10）」、「3度の食事をとる（8）」、「高齢者110番（7）」であった。
- ・バツカード（必要ないと思われるカード）は「1日4000歩歩く」であった。
- ・若いお母さんからは通学路のこと、道路の段差のことなど、ハードな面での要望が多かった。また、ホームレスの方にも3人、意見を伺った。できる範囲内で食事や健康に気を使っているとのことだった。それと、パソコン教室が今人気があるようで、高齢者の方の中にも関心のある人がいるようだ。
- ・感想としては説明が難しい、言葉をうまくカードにするのが難しいなどがあった。

＜江北＞大師前で6人、家庭訪問で5人にインタビューできた。

- ・次のような気づきがあった。大師に参拝に来られる方には、趣味が英会話や登山などの活動的な人が多かった。また、謙虚な方が多く、批判する言葉が少なかった。
- ・訪問では、奥さんが旦那さんがいると言葉を発しにくい様子だった。この目的系図には健康でない人の意見がないという指摘も受けた。
- ・感想には次のようなものがあった。表は項目が多く、見にくいと多くの方に言われてしまった。言葉カードが抽象的で難しいと感じた。介護者からのコメントがない気がするとの意見が出た。

＜中央本町＞8人の方にインタビューできた。

- ・「健康に気をつける（5票）」、「高齢者110番（4票）」のエイブルに票が集まった。
- ・批判的な意見も頂けた。「家族の項目は一人暮らしの方には必要ない」、「モデル事業には具体性がない」、「協力店に対しては否定的、非現実的である」とのこと。
- ・犬のフンの始末や夜鳴きを問題に感じている方も多かった。
- ・保健婦さんからは、衆目評価がしんどいと感じる面もあるが、とても面白かったという感想を頂いた。

＜竹ノ塚＞老人館を訪ねた。30人くらいの方から意見を集められた。

- ・多かった意見は「くよくよせずに生きることが大切（12）」、「健康に気をつける。笑顔を忘れない（11）」など。前向きな自分の生き方に対するコメントが多かった。
- ・こちらの気づきとして、大人数の前で行うため、文字を大きくする、表に色をつけるなどの工夫が必要になってくる、という意見が挙がった。